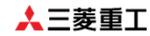


2023年度第3四半期決算説明資料

2024年2月6日

三菱重工業株式会社

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.



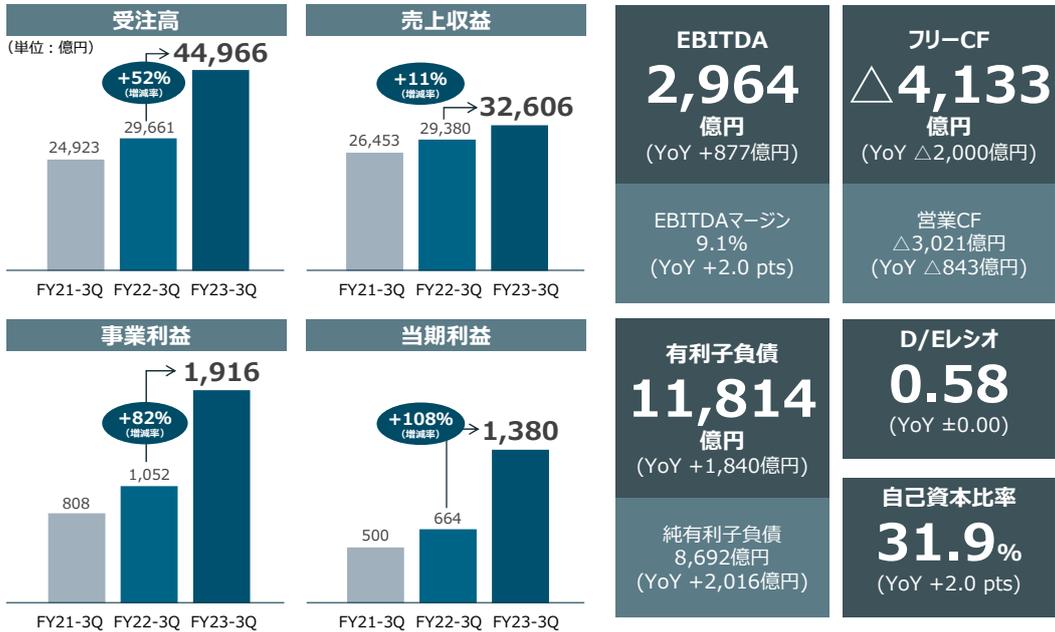
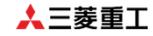
皆さん、こんにちは。CFOの小澤です。
それでは、第3四半期の決算概要について説明します。

1. 決算のポイント	3-5
2. 2023年度第3四半期決算実績	6-14
・ 連結経営成績サマリー	
・ 連結財政状態、キャッシュ・フロー	
・ 事業利益増減分析	
・ セグメント情報	
3. 2023年度業績見通し	15-18
・ 業績見通しサマリー	
・ セグメント情報	
4. 補足資料	19-22
株式分割について	23-24

資料の構成は、目次に記載のとおりです。

1. 決算のポイント

2023年度第3四半期決算実績



© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

4

初めに、決算実績の全体概況について説明します。
このページでは主要な財務指標の実績を記載しています。

2023年度第3四半期決算実績ハイライト



- **受注高**：44,966億円（前年同期比：+15,304億円）
エネルギー、物流・冷熱・ドライブシステム、航空・防衛・宇宙の3セグメントが増加。
主な事業別では、GTCC、原子力、防衛・宇宙が受注を大きく伸ばした
- **売上収益**：32,606億円（前年同期比：+3,226億円）
全セグメントで前年同期比増収。
主な事業別では、製鉄機械、物流機器、防衛・宇宙が売上収益を大きく伸ばした
- **事業利益**：1,916億円（前年同期比：+863億円）
全セグメントで前年同期比増益。
売上増、工事採算の改善、サービス事業の拡大、価格適正化、為替影響等が寄与し、事業利益は前年同期比82%増の1,916億円となった
- **当期利益**：1,380億円（前年同期比：+716億円）
事業利益の増加にともない前年同期比108%増の1,380億円となった

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

5

このページでは主要な財務指標の実績に関する要旨を記載しています。

受注高、売上収益、事業利益、当期利益のいずれも前年同期を上回りました。特に受注高の伸びは大きく、第3四半期までで前年度の年間受注額の実績である、4兆5,013億円と同水準に到達しました。通期見通しについては、第2四半期決算発表時点で1兆円上方修正を行いました。為替円安が継続していることや、原子力などが想定以上の進捗となっていることを踏まえて、さらに4,000億円上方修正し、6兆円に変更します。

売上収益は、全セグメントで前年同期比増収となりました。前年度との為替換算レート差の影響が約1,000億円ありますが、これを除いても増収です。第3四半期までの進捗を踏まえて、通期見通しをプラント・インフラセグメントおよび物流・冷熱・ドライブシステムセグメントについて、それぞれ500億円ずつ、合計1,000億円上方修正し、4兆4,000億円とします。

事業利益、当期利益とも前年同期から大きく増益となりました。スライド9ページでも記載していますが、前年度来の価格適正化の取り組みの効果や、増収効果、為替円安の影響などが第2四半期までと同様に寄与しました。

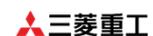
フリー・キャッシュ・フローは絶対値でマイナス4,000億円、前年同期比2,000億円の悪化となりましたが、第4四半期に多額の入金が予定されていることもあり、年度計画比ではほぼ想定どおりの進捗となっています。

2. 2023年度第3四半期決算実績

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

このページ以降では、決算実績をもう少し詳細に記載しています。

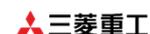
連結経営成績サマリー



(単位：億円)	FY2022-3Q (利益率)	FY2023-3Q (利益率)	増減 (利益率)	(増減率)
受注高	29,661	44,966	+15,304	(+51.6%)
売上収益	29,380	32,606	+3,226	(+11.0%)
事業利益	1,052 (3.6%)	1,916 (5.9%)	+863 (+2.3 pts)	(+82.0%)
親会社の所有者に 帰属する当期利益	664 (2.3%)	1,380 (4.2%)	+716 (+1.9 pts)	(+107.8%)
EBITDA	2,086 (7.1%)	2,964 (9.1%)	+877 (+2.0 pts)	(+42.1%)
フリー・キャッシュ・フロー	△2,132	△4,133	△2,000	

このページの数表は繰り返しとなりますので、説明は省略します。

連結財政状態、キャッシュ・フロー



連結財政状態	(単位：億円)	FY22末	FY23-3Q末	増減
売上債権（営業債権及び契約資産）		15,364	17,382	+2,018
棚卸資産		8,768	10,419	+1,650
その他流動資産		6,289	6,649	+359
（うち現金及び現金同等物）		(3,476)	(3,121)	(△355)
固定資産		10,411	10,997	+586
投資等		13,913	14,733	+819
資産合計		54,748	60,181	+5,433
営業債務		8,952	8,421	△531
契約負債		9,367	8,839	△527
その他		10,663	10,822	+159
有利子負債		7,424	11,814	+4,390
資本		18,339	20,283	+1,943
（うち親会社の所有者に帰属する持分）		(17,409)	(19,180)	(+1,770)
負債及び資本合計		54,748	60,181	+5,433
キャッシュ・フロー	(単位：億円)	FY22-3Q	FY23-3Q	増減
営業キャッシュ・フロー		△2,177	△3,021	△843
投資キャッシュ・フロー		45	△1,111	△1,156
フリー・キャッシュ・フロー		△2,132	△4,133	△2,000

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

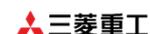
8

このページでは、バランスシートおよびキャッシュ・フローについて記載しています。

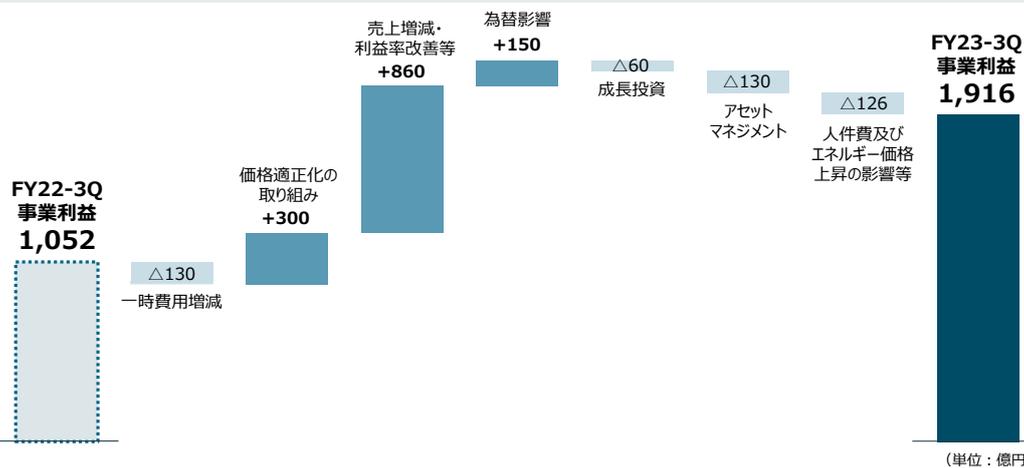
総資産は22年度末から5,433億円増加の6兆181億円となりました。増加の内訳としては、円安進行に伴う外貨建て資産の換算影響が約1,300億円、また保有株の時価上昇影響が約500億円あります。また売上債権と棚卸資産が増加していますが、当社の例年の傾向であり、通常の変動の範囲内で推移していると考えています。固定資産や投資等の増加は、米国のコンセントリック社の買収や、田町の新ビルの取得が主要因です。

キャッシュ・フローについては、営業キャッシュ・フローが前年同期比で大きなマイナスとなりました。事業規模が拡大しつつあることにくわえ、プロダクトミックスの変化から前受金を消化するフェーズにあることなどが一因です。一方、売上債権、棚卸資産といった項目については増加傾向にありますので、引き続き注意深く管理していきます。投資キャッシュ・フローは、有価証券売却などの収入があったものの、アセット売却関連の収入が減少したことにくわえ、コンセントリック社買収などの成長分野への投資拡大により、前年同期比で支出増となっています。

事業利益増減分析



- 一時費用については、航空エンジン事業におけるPW1100G-JMエンジンに関する費用の計上等により利益を押し下げ
- 価格適正化の効果、売上増、工事採算の改善及びサービス拡大等による利益率改善、為替円安影響が利益を押し上げ



© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

9

このページでは、前年同期比での事業利益の増減要因について説明しています。

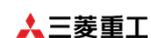
一番左端の棒グラフ、22年度第3四半期の事業利益は1,052億円でした。

その隣の「一時費用増減」は、各年度に計上した一時費用の差異を示しています。前年度は第3四半期までに、欧州の火力事業拠点などの事業構造改善費用のほか、いくつかの海外プロジェクトでの一時費用を計上しました。今年度は、第2四半期に計上した航空エンジンプログラム関連の一時費用にくわえて、海外プロジェクトでのクレーム対応費用、海外投資案件の減損などを計上しています。

「価格適正化の取り組み」は、今年度はフォークリフトや冷熱製品などにおいて、前年度比でのコストアップ幅が抑制された一方で、価格適正化、すなわち販売価格の改定による改善効果がこれを上回り、300億円の増益要因となりました。四半期ごとに見ると、第1四半期に140億円、第2四半期に100億円、第3四半期に60億円の増益要因となっており、前年度から価格適正化の効果が出ていたことから、増益幅は四半期ごとに若干縮小しています。

その他、ここに記載の要因で増減し、当期の事業利益は1,916億円となりました。

決算実績 セグメント別内訳



	受注高			売上収益			事業利益		
	FY22 3Q	FY23 3Q	増減	FY22 3Q	FY23 3Q	増減	FY22 3Q	FY23 3Q	増減
(単位：億円)									
エナジー	12,066	17,532	+5,465	11,994	12,306	+312	388	775	+387
プラント・インフラ	5,856	5,788	△68	4,572	5,525	+952	144	345	+201
物流・冷熱・ ドライブシステム	8,845	9,686	+841	8,697	9,562	+864	222	588	+366
航空・防衛・宇宙	3,145	12,041	+8,895	4,320	5,269	+949	356	536	+180
全社又は消去	△252	△81	+170	△204	△56	+148	△57	△330	△272
合計	29,661	44,966	+15,304	29,380	32,606	+3,226	1,052	1,916	+863

SpaceJet事業に係る損益は、全社又は消去に含めている。

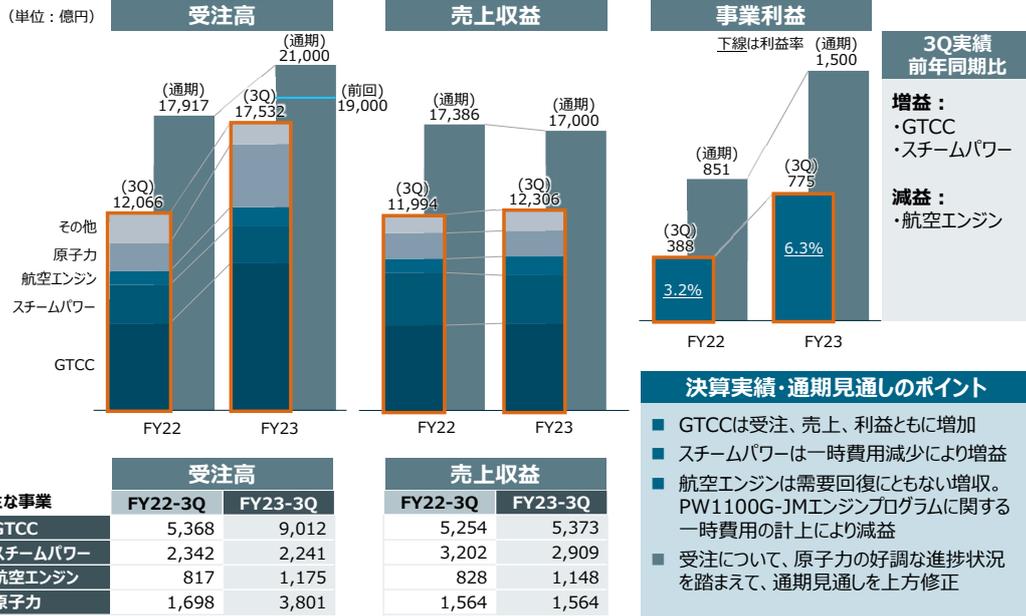
© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

10

このページでは、セグメント別の受注高、売上収益、事業利益をまとめて表示しています。

次のページ以降で、セグメント別に説明します。

セグメント別決算実績 <エネルギー>



© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

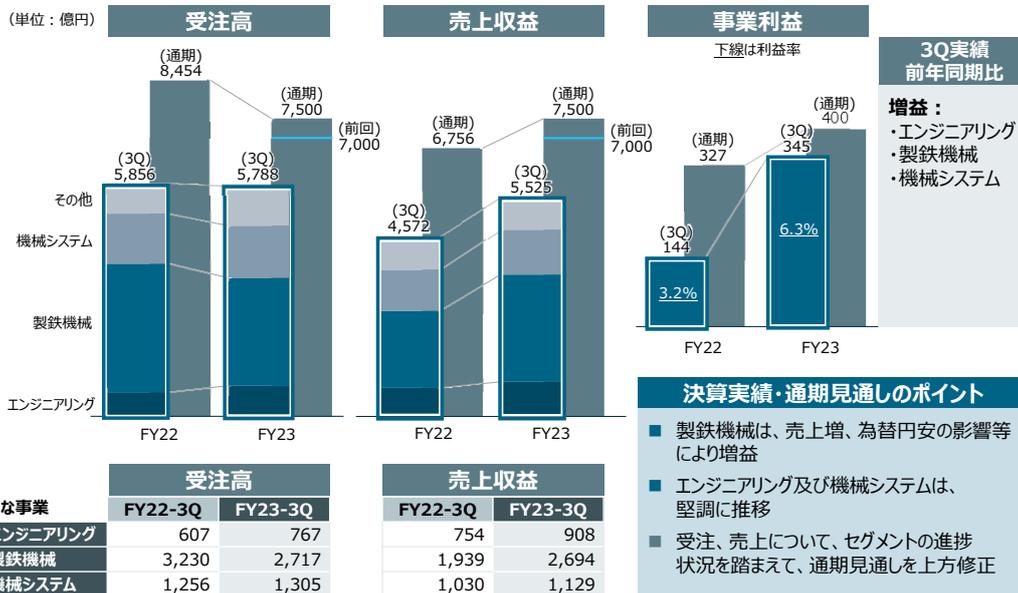
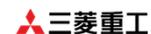
11

このページでは、エネルギーの状況を記載しています。

受注高、売上収益、事業利益とも前年同期を上回りました。

特に受注高については、GTCCが前年度からの好調を継続しているほか、原子力などエネルギー全体の進捗も良好なことから、通期見通しを2,000億円上方修正し、2兆1,000億円としています。

セグメント別決算実績 <プラント・インフラ>



主な事業	受注高		売上収益	
	FY22-3Q	FY23-3Q	FY22-3Q	FY23-3Q
エンジニアリング	607	767	754	908
製鉄機械	3,230	2,717	1,939	2,694
機械システム	1,256	1,305	1,030	1,129

- 決算実績・通期見通しのポイント**
- 製鉄機械は、売上増、為替円安の影響等により増益
 - エンジニアリング及び機械システムは、堅調に推移
 - 受注、売上について、セグメントの進捗状況を踏まえて、通期見通しを上方修正

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

12

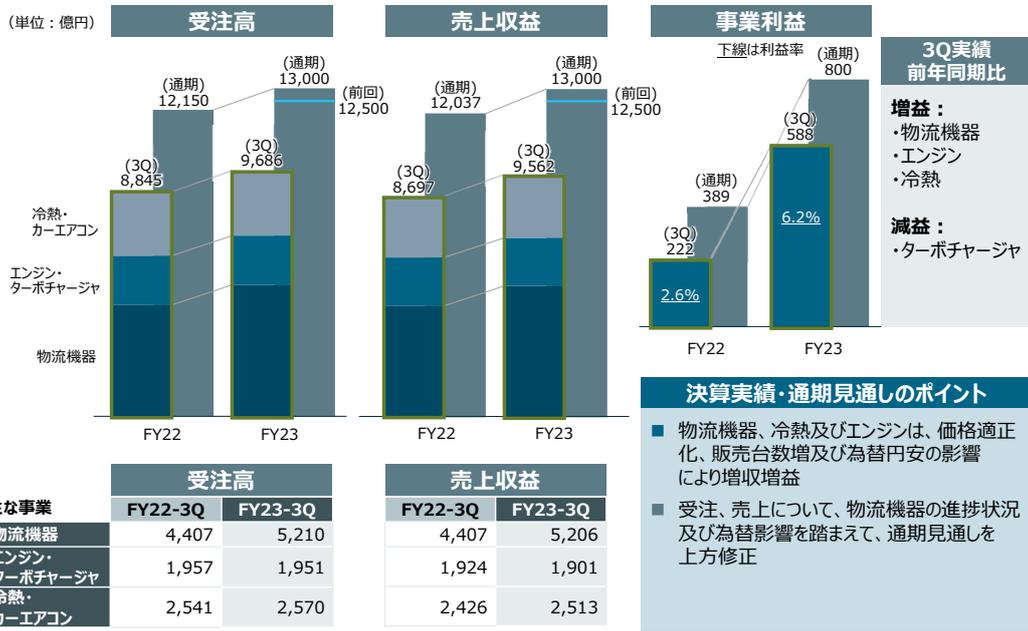
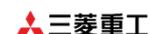
このページでは、プラント・インフラの状況を記載しています。

このセグメントは、受注高は前年同期比で減少しましたが、売上収益、事業利益は増収増益となりました。

受注高の減少は、表中に記載のとおり、製鉄機械が主要因ですが、現状の受注水準は従前の想定よりも強含みです。この点を踏まえて、通期見通しを500億円上方修正し、7,500億円としています。

売上収益についても、第3四半期までの進捗を踏まえて、通期見通しを500億円上方修正し、7,500億円としています。

セグメント別決算実績 <物流・冷熱・ドライブシステム>



© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

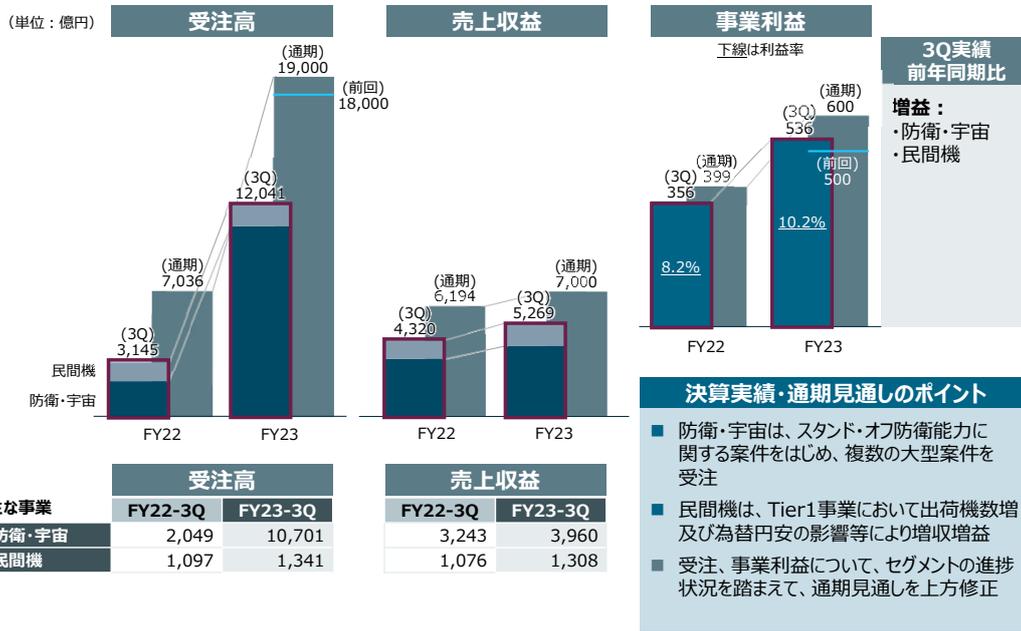
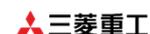
13

このページでは、物流・冷熱・ドライブシステムの状況を記載しています。

受注高、売上収益、事業利益とも前年同期を上回りました。

物流機器の第3四半期までの進捗にくわえ、為替の円安水準が継続していることなどを踏まえて、受注高・売上収益の通期見通しを500億円上方修正し、1兆3,000億円としています。

セグメント別決算実績 <航空・防衛・宇宙>



© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

14

このページでは、航空・防衛・宇宙の状況を記載しています。

受注高、売上収益、事業利益とも前年同期を上回りました。

特に受注高については、第1四半期から継続して、防衛分野を中心に計画した案件の受注を着実に積み上げられています。第3四半期までの進捗と今後の計画を踏まえて、通期見通しを1,000億円上方修正し、1兆9,000億円としています。

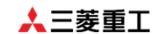
事業利益については、民間航空機Tier1事業において、ボーイング向け787の出荷機数が増加したことにくわえて、為替円安のメリットもあり、第3四半期までの進捗は良好です。これらの点を踏まえて、通期見通しを100億円上方修正し、600億円としています。

3. 2023年度業績見通し

本資料に記載している業績見通し等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したもので、リスクや不確実性を含んでおり、また、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。従いまして、この業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。実際の業績は、様々な重要な要素により、この業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素には、当社グループの事業領域をとりまく経済情勢、対ドルをはじめとする円の為替レート、日本の株式相場などが含まれます。

このページから18ページまで、今年度の業績見通しを記載しています。

業績見通しハイライト



■ 受注高：60,000億円（前回見通し比：+4,000億円）

	前回見通し	今回見通し	増減	上方修正した主な事業
エネルギー	19,000億円	21,000億円	+2,000億円	・ 原子力
プラント・インフラ	7,000億円	7,500億円	+500億円	・ 製鉄機械
物流・冷熱・ドライブシステム	12,500億円	13,000億円	+500億円	・ 物流機器
航空・防衛・宇宙	18,000億円	19,000億円	+1,000億円	・ 防衛・宇宙

■ 売上収益：44,000億円（前回見通し比：+1,000億円）

	前回見通し	今回見通し	増減	上方修正した主な事業
プラント・インフラ	7,000億円	7,500億円	+500億円	・ 製鉄機械
物流・冷熱・ドライブシステム	12,500億円	13,000億円	+500億円	・ 物流機器

■ 事業利益：3,000億円（前回見通し比：±0億円）

	前回見通し	今回見通し	増減	上方修正した主な事業
航空・防衛・宇宙	500億円	600億円	+100億円	・ 防衛・宇宙、民間機
全社又は消去	△200億円	△300億円	△100億円	

■ 当期利益、フリーCF及び配当金は、前回公表値から変更なし

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

16

今回の変更内容の要旨はこのページに記載のとおりです。既にお話した内容と重複するため、説明は省略します。

決算についての説明は以上となりますが、株式分割について説明しますので、24ページをご覧ください。

業績見通しサマリー



前回公表値（2023年11月6日）から変更あり

(単位：億円)	2022年度 実績 (利益率)	2023年度 (利益率)		2022年度比 増減 (利益率)	(増減率)
		前回見通し	今回見通し		
受注高	45,013	56,000	60,000	+14,986	(+33.3%)
売上収益	42,027	43,000	44,000	+1,972	(+4.7%)
事業利益	1,933 (4.6%)	3,000 (7.0%)	3,000 (6.8%)	+1,066 (+2.2 pts)	(+55.2%)
親会社の所有者に 帰属する当期利益	1,304 (3.1%)	1,900 (4.4%)	1,900 (4.3%)	+595 (+1.2 pts)	(+45.6%)
ROE	7.9%	11%	11%	+3 pts	
EBITDA	3,311 (7.9%)	4,400 (10.2%)	4,400 (10.0%)	+1,088 (+2.1 pts)	(+32.9%)
フリー・キャッシュ・フロー	353	△1,000	△1,000	△1,353	
配当	130円 中間60円/期末70円	160円 中間80円/期末80円	160円 中間80円/期末80円	前提為替レート： 1ドル=140円、1ユーロ=150円 未確定外貨：18億ドル、3億ユーロ	

業績見通し セグメント別内訳

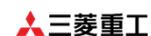


前回公表値（2023年11月6日）から変更あり

(単位：億円)	受注高				売上収益				事業利益			
	FY22 実績	FY23見通し		FY22比 増減	FY22 実績	FY23見通し		FY22比 増減	FY22 実績	FY23見通し		FY22比 増減
		前回	今回			前回	今回			前回	今回	
エナジー	17,917	19,000	21,000	+3,082	17,386	17,000	17,000	△386	851	1,500	1,500	+648
プラント・インフラ	8,454	7,000	7,500	△954	6,756	7,000	7,500	+743	327	400	400	+72
物流・冷熱・ ドライブシステム	12,150	12,500	13,000	+849	12,037	12,500	13,000	+962	389	800	800	+410
航空・防衛・ 宇宙	7,036	18,000	19,000	+11,963	6,194	7,000	7,000	+805	399	500	600	+200
全社又は消去	△545	△500	△500	+45	△347	△500	△500	△152	△35	△200	△300	△264
合計	45,013	56,000	60,000	+14,986	42,027	43,000	44,000	+1,972	1,933	3,000	3,000	+1,066

4. 補足資料

補足資料 参考データ



大型ガスタービン 受注台数・契約残台数

	FY22-3Q	FY22通期	FY23-3Q
米州	4	4	1
アジア	4	7	8
EMEA	1	1	-
その他	2	4	1
受注台数 合計	11	16	10
契約残台数	43	43	32

民間航空機 出荷機数

777	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
FY22	6	7	7	10	30
FY23	7	11	7		25

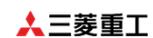
777X	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
FY22	1	0	0	0	1
FY23	0	1	3		4

787	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
FY22	5	7	8	5	25
FY23	9	7	13		29

【参考】中国の協業先企業における受注台数

	FY22-3Q	FY22通期	FY23-3Q
受注台数	21	27	16

補足資料 参考データ



研究開発費、減価償却費、設備投資

(単位：億円)	FY22-3Q	FY23-3Q	2023年度見通し
研究開発費	829	1,019	1,500
減価償却費	1,033	1,047	1,400
設備投資	933	1,443	1,800

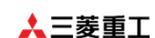
販売費及び一般管理費

(単位：億円)	FY22-3Q	FY23-3Q
販管費	4,485	4,779

為替レート (売上計上平均レート)

	FY22-3Q	FY23-3Q
USドル (円 / USドル)	135.3	142.4
ユーロ (円 / ユーロ)	137.6	152.9

補足資料 参考データ



受注残高 (単位：億円)	FY22-4Q	FY23-3Q
エナジー	33,256	39,593
プラント・インフラ	15,092	15,462
物流・冷熱・ドライブシステム	548	656
航空・防衛・宇宙	11,718	18,477
合計	60,618	74,317

地域別売上高 (単位：億円)	FY22-3Q		FY22通期		FY23-3Q	
日本	12,142	(41%)	18,083	(43%)	12,938	(40%)
アジア・パシフィック	5,670	(19%)	7,658	(18%)	5,472	(17%)
米州	7,532	(26%)	10,684	(26%)	9,475	(29%)
EMEA	4,034	(14%)	5,602	(13%)	4,720	(14%)
合計	29,380	(100%)	42,027	(100%)	32,606	(100%)

株式分割について

株式分割について



■ 目的

当社株式の投資単位当たりの金額を引き下げることにより、投資家の皆様により投資しやすい環境を整え、投資家層の拡大を図るため

■ 内容

分割の割合 普通株式を1株につき10株の割合をもって分割

基準日 2024年3月31日 (日)

効力発生日 2024年4月 1日 (月)

■ 増加する株式数

	発行済株式総数	発行可能株式総数
株式分割前	337,364,781株	600,000,000株
株式分割後	3,373,647,810株	6,000,000,000株

このページでは株式分割について記載しています。

現在、当社の株価は1万円前後であり、単位株の取得に要する資金は約100万円です。東証から取引単価の引き下げ要請が出されていることを踏まえて、10分割することを決定しました。

以上をもちまして、私からの説明を終了します。ありがとうございました。

MOVE THE WORLD FORWARD MITSUBISHI
HEAVY
INDUSTRIES
GROUP

